

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



2020.7.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

### 140 指揮者のために。ダビデの賛歌

140:1 主よ。私をよこしまな人から助け出し、暴虐の者から、私を守ってください。

140:2 彼らは心の中で悪をたくらみ、日ごとに戦いを仕掛けています。

140:3 蛇のように、その舌を鋭くし、そのくちびるの下には、まむしの毒があります。セラ

140:4 主よ。私を悪者の手から守り、暴虐の者から、私を守ってください。彼らは私の足を押し倒そうとたくらんでいます。

140:5 高ぶる者は、私にわなと綱を仕掛け、道ばたに綱を広げ、私に落とし穴を設けました。セラ

140:6 私は主に申し上げます。「あなたは私の神。主よ。私の願いの声を聞いてください。

140:7 私の主、神、わが救いの力よ。あなたは私が武器をとる日に、私の頭をおおわれました。

140:8 主よ。悪者の願いをかなえさせないでください。そのたくらみを遂げさせないでください。彼らは高ぶっています。セラ

140:9 私を取り囲んでいる者の頭。これを彼のくちびるの毒毒がおおいますように。

140:10 燃えている炭火が彼らの上にふりかかりますように。彼らが火の中に、また、深い淵に落とされ、彼らが立ち上がれないようにしてください。

140:11 そしる者が地上で栄えないように。わざわざが暴虐の者を急いで捕えるようにしてください。」



140:12 私は知っています。主は悩む者の訴えを支持し、貧しい者に、さばきを行なわれることを。

140:13 まことに、正しい者はあなたの御名に感謝し、直ぐな人はあなたの御前に住むでしょう。

ダビデの苦難からの救いを願う歌です。このような悪しき敵に対して、「蛇のように、その舌を鋭くし、そのくちびるの下には、まむしの毒があります。」と、敵のことを非難し、さらには「燃えている炭火が彼らの上にふりかかりますように…」というような、のろいと復讐のことばに満ちています。イエス様は「敵を愛しなさい」と教えました。しかし、この詩篇もまた神様の御心になつているのでしょうか。

ローマ書には以下のように書いてあります。  
「12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。』  
12:20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。

すなわち、ダビデのような祈りを私たちにも許されるとするなら、それは「燃える火」を積むようなことになるでしょう。自分で復讐するのではなく、神様に祈り、神様の御手を求めるのです。実際に私たちは、自分が神様に守られていると信じていられるからこそ、敵を赦すことができるのです。そうでないなら、必死でその敵に挑み戦い、相手を打ちのめすか、または自分自身が立ち上がれないほどの返り討ちにあうのです。

仕返しは主に委ねましょう。私たち自身は、敵にも愛を表しましょう。むしろその人のためにとりなして祈りましょう。どうしても赦せない思いがあるならダビデのように、人ではなく、主に訴えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 7日 火曜

### 詩篇

#### 141 ダビデの賛歌

141:1 主よ。私はあなたを呼び求めます。私のところに急いでください。私があなたに呼ばれるとき、私の声を聞いてください。

141:2 私の祈りが、御前への香として、私の手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように。

141:3 主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。

141:4 私の心を悪いことに向けさせず、不法を行なう者どもとともに、悪い行ないに携わらないようにしてください。私が彼らのうまい物を食べないようにしてください。

141:5 正しい者が愛情をもって私を打ち、私を責めますように。それは頭にそそがれる油です。私の頭がそれを拒まないようにしてください。彼らが悪行を重ねても、なおも私は祈ります。

141:6 彼らのさばきづかさらが岩のかたわらに投げ落とされたとき、彼らは私のいかにも喜ばしいことばを聞くことでしょう。

141:7 人が地を掘り起こして砕くときに、私たちの骨はよみの入口にまき散らされました。

141:8 私の主、神よ。まことに、私の目はあなたに向いています。私はあなたに身を避けます。私を放り出さないでください。

141:9 どうか、彼らが私に仕掛けたわなから、不法を行なう者の落とし穴から、私を守ってください。

141:10 私が通り過ぎるそのときに、悪者はおのれ自身の網に落ち込みますように。



ダビデは理不尽な敵が減ぼされるようにと祈っています。私たちにもそれが許されています。それは神の愛であり、怒りと恐れに震える私たちが支えられるためです。また私たちが、自分で敵に復讐するのではなく、神様に委ねるためです。

そうすることによって、私たちは恐怖心に打ち勝ち、怒りから開放され、敵を赦すことができるのです。実際ダビデのこのような歌は、サウル王からの仕打ちに関係しているものが多いのですが、彼は復讐のチャンスにも、サウル王を手を掛けることはしませんでした。むしろその死を悼んだのです。ダビデの歌と赦しから学びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 8日 水曜

### 詩篇

142 ダビデのマスキール。彼が洞窟にいたときに。祈り

142:1 私は主に向かい、声をあげて叫びます。声をあげ、主にあわれみを請います。

142:2 私は御前に自分の嘆きを注ぎ出し、私の苦しみを御前に言い表わします。

142:3 私の霊が私のうちで衰え果てたとき、あなたこそ、私の道を知っておられる方です。私が歩く、その道に、彼らは、私に、わなを仕掛けています。

142:4 私の右のほうに目を注いで、見てください。私を顧みる者もなく、私の逃げる所もなくなり、私のたましいに気を配る者もいません。

142:5 主よ。私はあなたに叫んで、言いました。「あなたは私の避け所、生ける者の地で、私の分の土地です。

142:6 私の叫びに耳を留めてください。私はひどく、おとしめられていますから。どうか、私を迫害する者から救い出してください。彼らは私よりも強いのです。

142:7 私のたましいを、牢獄から連れ出し、私があなたの御名に感謝するようにしてください。正しい者たちが私の回りに集まることでしょう。あなたが私に良くして下さるからです。」

自分の側についてくれる人がないというのは、さびしく悲しく、そして情けない気持ちになるものです。人々に恨みごとを言いたくもなりません。しかし、そのような時こそ、信仰の時です。ダビデは「あなたは私の避け所、生ける者の地で、私の分の土地です。」と、そこで主に心を向けて信頼しました。



神様が守ってくださるはずなの、どうして自分に仲間をくださらないのだ…と嘆くのではなく、神様が守ってくださるのだから、仲間がなくとも神様さえいてくだされば安心だ…と信頼するのです。ここに私たちの信仰が明らかになります。

そうすると、仲間が集まってくるのです。それも「あなたが私に良くして下さるからです。」と、ダビデが言うように、神様のみわざです。

人に頼ってがっかりする悪循環から抜け出しましょう。そして主に頼り、主が送って下さる人、主がなして下さるみわざに期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 9日 木曜

### 詩篇

#### 143 ダビデの賛歌

143:1 主よ。私の祈りを聞き、私の願いに耳を傾けてください。あなたの真実と義によって、私に答えてください。

143:2 あなたのしもべをさばきにつけないでください。生ける者はだれひとり、あなたの前に義と認められないからです。

143:3 敵は私のたましいを追いつめ、私のいのちを地に打ち砕き、長く死んでいる者のように、私を暗い所に住ませたからです。

143:4 それゆえ、私の霊は私のうちで衰え果て、私の心は私のうちでこぼれました。

143:5 私は昔の日々を思い出し、あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、あなたの御手のわざを静かに考えています。

143:6 あなたに向かって、私は手を差し伸べ、私のたましいは、かわききった地のよう、あなたを慕います。セラ

143:7 主よ。早く私に答えてください。私の霊は滅びてしまいます。どうか、御顔を私に隠さないでください。私が穴に下る者として等しくならないため。

143:8 朝にあなたの恵みを聞かせてください。私はあなたに信頼していますから。私に行くべき道を知らせてください。私のたましいはあなたを仰いでいますから。

143:9 主よ。私を敵から救い出してください。私はあなたの中に、身を隠します。

143:10 あなたのみこころを行なうことを教えてください。あなたこそ私の神であられますから。あなたのいつくしみ深い霊が、平らな地に私を導いてくださるよう。



143:11 主よ。あなたの御名のゆえに、私を生かし、あなたの義によって、私のたましいを苦しみから連れ出してください。

143:12 あなたの恵みによって、私の敵を滅ぼし、私のたましいに敵対するすべての者を消し去ってください。私はあなたのしもべですから。

ダビデが神に窮状を訴えています。特徴的なのは「あなたのしもべをさばきにつけないでください。」という言葉でしょう。人は苦しみにあうとき、自分の罪ゆえではないかと思ってしまうものです。ダビデはもしも自分の罪ゆえであっても、さばかないでくださいと願っています。

もしも罪よって苦しみが与えられるであったなら、「生ける者はだれひとり」主の前に義と認められないので、苦しみから逃れることはできないと訴えています。きっと自分にも罪があるので、その罪を見逃してくださいという気持ちです。

都合の良い願いのようですが、ここに正しい認識があります。自分は人であって義とは認められないという謙遜。そして神様こそが義であって、罪を認める方ではないという、神への畏れです。

私たちはその上で、主に助けを求めるのです。それはまさにただ恵みを求める券そんな姿勢なのです。自分の正しさや頑張りをつたえて祈るのではなく、ただ主の恵みに依り頼んで求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶10日 金曜

### 詩篇

#### 144 ダビデによる

144:1 ほむべきかな。わが岩である主。主は、戦いのために私の手を、いくさのために私の指を、鍛えられる。

144:2 主は私の恵み、私のとりで。私のやぐら、私を救う方。私の盾、私の身の避け所。私の民を私に服させる方。

144:3 主よ。人とは何者なのでしょう。あなたがこれを知っておられるとは。人の子とは何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。

144:4 人はただ息に似て、その日々は過ぎ去る影のようです。

144:5 主よ。あなたの天を押し曲げて降りて来てください。山々に触れて、煙を出させてください。

144:6 いなずまを放って、彼らを散らし、あなたの矢を放って、彼らをかき乱してください。

144:7 いと高き所からあなたの御手を伸べ、大水から、また外国人の手から、私を解き放し、救い出してください。

144:8 彼らの口はうそを言い、その右の手は偽りの右の手です。

144:9 神よ。あなたに、私は新しい歌を歌い、十弦の琴をもってあなたに、ほめ歌を歌います。

144:10 神は王たちに救いを与え、神のしもべダビデを、悪の剣から解き放されます。

144:11 私を、外国人の手から解き放し、救い出してください。彼らの口はうそを言い、その右の手は偽りの右の手です。



144:12 私たちの息子らが、若いときに、よく育った若木のようになりますように。私たちの娘らが、宮殿の建物にふさわしく刻まれた隅の柱のようになりますように。

144:13 私たちの倉は満ち、あらゆる産物を備えますように。私たちの羊の群れは、私たちの野原で、幾千幾万となりますように。

144:14 私たちの牛が子牛を産み、死ぬこともなく、出て行くこともなく、また、哀れな叫び声が私たちの町にありませんように。

144:15 幸いなことよ。このようになる民は。幸いなことよ。主をおのれの神とするその民は。

「主は、戦いのために私の手を、いくさのために私の指を、鍛えられる。」とあります。この歌において特徴的なことばです。弓を引いたり、剣を持ったりする、いわば現実的な部分です。そこを鍛えていただけたなら、これほど心強いことはありません。

その上であれば、「人とは何者なのでしょう。」というような弱い者でも、「いなずまを放って…あなたの矢を放って…」というような力強い戦いができるでしょう。主に鍛えていただけるチャンスを前向きに受け止めましょう。労苦や困難や難題もまたチャンスとしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



### 145 ダビデの賛美

145:1 私の神、王よ。私はあなたをあがめます。あなたの御名を世々限りなく、ほめたたえます。

145:2 日ごとにあなたをほめたたえ、あなたの御名を世々限りなく賛美します。

145:3 主は大いなる方。大いに賛美されるべき方。その偉大さを測り知ることができません。

145:4 代は代へと、あなたのみわざをほめ歌い、あなたの大能のわざを告げ知らせるでしょう。

145:5 私は栄光輝くあなたの主権と、あなたの奇しいわざに思いを潜めます。

145:6 人々はあなたの恐ろしいみわざの力を語り、私はあなたの偉大さを述べるでしょう。

145:7 人々はあなたの豊かないつくしみの思い出を熱心に語り、あなたの義を高らかに歌うでしょう。

145:8 主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵みに富んでおられます。

145:9 主はすべてのものについていつくしみ深く、そのあわれみは、造られたすべてのものの上にあります。

145:10 主よ。あなたの造られたすべてのものは、あなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめたたえます。

145:11 彼らはあなたの王国の栄光を告げ、あなたの大能のわざを、語るでしょう。

145:12 こうして人の子らに、主の大能のわざと、主の王国の輝かしい栄光を、知らせましょう。



145:13 あなたの王国は、永遠にわたる王国。あなたの統治は、代々限りなく続きます。

本編は節ごとに文頭がアルファベット順になっています（ヘブル語ではアレフ・ベツ…）。表題には「賛美」とありますが、原語ではテヒラーであって、これは詩篇のヘブル語題であるテヒリームの単数形です。賛美のエッセンスがここに表されていると言っても良いと思われれます」。

3節までは主の「御名」のゆえに賛美し、7節までは主の「みわざ」のゆえに、10節までは主の「恵み」のゆえに、13節までは主の「王国」のゆえに賛美しています。このように主のすばらしさを、より詳細に賛美することは信仰の大きな励みになりますから、そのように祈りましょう。また証ししましょう。ここにあるそれぞれの賛美の内容を、自分自身の人生や神体験に当てはめて受け取りなおしてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



145:14 主は倒れる者をみなささえ、かがんで  
いる者をみな起こされます。

145:15 すべての目は、あなたを待ち望んで  
います。あなたは時になつて、彼らに食物を  
与えられます。

145:16 あなたは御手を開き、すべての生ける  
ものの願いを満たされます。

145:17 主はご自分のすべての道において正し  
く、またすべてのみわざにおいて恵み深い。

145:18 主を呼び求める者すべて、まことを  
もって主を呼び求める者すべてに主は近くあ  
られる。

145:19 また主を恐れる者の願いをかなえ、彼  
らの叫びを聞いて、救われる。

145:20 すべて主を愛する者は主が守られる。  
しかし、悪者はすべて滅ぼされる。

145:21 私の口が主の誉れを語り、すべて肉な  
る者が聖なる御名を世々限りなくほめたたえ  
ますように。

さらに16節までは主の「道」のゆえに、21節ま  
では主の「救い」のゆえに賛美しています。

主の道とは人にはその時には分からないこともあ  
ります。しかし恵みとして受け止められないような  
できごとさえも、「すべてのみわざにおいて正し  
い」と感謝できるのが、主の道です。

また救いとは「悪者」からの救いであるので、そ  
のような存在があることは想定内です。何も問題も  
敵もない状態が賛美なのではありません。その境  
遇で主の救いをいただくゆえに賛美なのです。むしろ  
それこそが主を知ることになります。

問題があることを嘆いたり恨んだりするのではな  
く、そこから救い回復してくださる主を賛美するこ  
とができるのだという信仰に立ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い  
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど  
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

